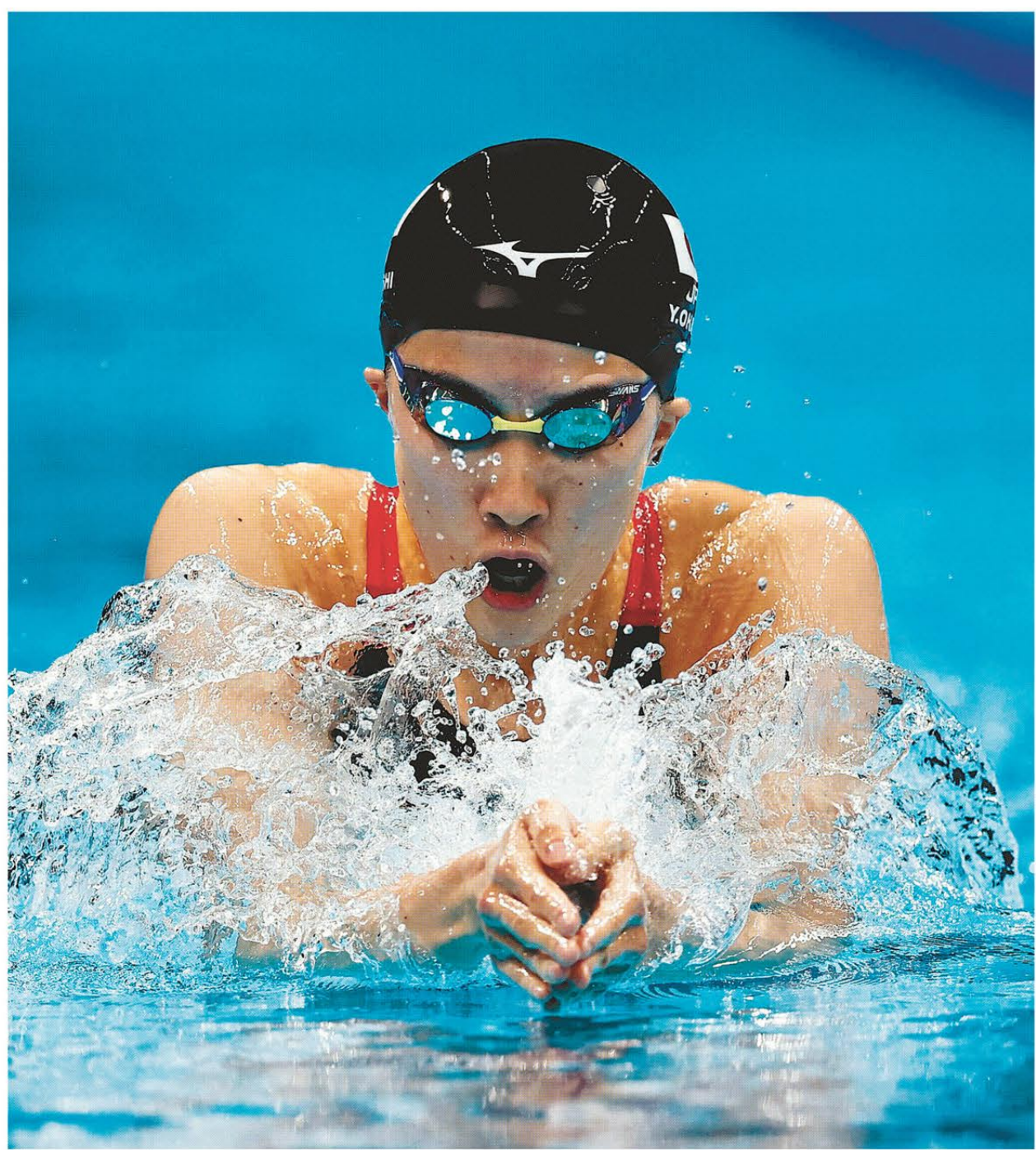


大橋 2冠

個人メドレー200、400

競泳女子初の快挙



東京五輪第6日の28日、競泳女子200メートル個人メドレー決勝で大橋悠依(25)が2分8秒52で優勝し、400メートル個人メドレーとの2種目制覇を成し遂げた。競泳の日本勢で金メダルを複数つかんだのは、男子平泳ぎで2004年アテネ、08年北京と2大会連続2冠に輝いた北島康介以来で、女子では初めての快挙だった。北島を育てた平井伯昌コーチの指導を仰ぎ、水の抵抗を受けにくい泳ぎを身につけた。16年リオデジャネイロ五輪後に日本女子のエースに成長し、世界選手権では17年に200メートル個人メドレーで銀、19年に400メートル個人メドレーで銅メダルを獲得した。

今回、25日の400メートル個人メドレー決勝では落ち着いたレースで制し、さらに大輪の花を咲かせた。

まだ夢みたい

大橋悠依の話 最後は体が止まっちゃってたけど、何とか踏ん張れた。最後は勝っても負けても何も後悔はないと言えるように泳ごうと思って、それが良かった。まだ夢みたいで実感はないけど、大舞台で自分の泳ぎができて自信になる。

大橋 悠依(おおはし ゆい) 競泳女子200メートル個人メドレー 日本女子のエースで今大会は400メートル個人メドレーでも優勝。世界選手権は初出場した17年に200メートルで銀メダル、19年は400メートルで3位。滋賀・草津東高、東洋大出、イトマン東進。174センチ、57キログラム。25歳。滋賀県出身。

【女子200メートル個人メドレー決勝】金メダルを獲得した大橋悠依の平泳ぎ=東京アクアティクスセンター